



賊初何連歎

かたしや成歎也

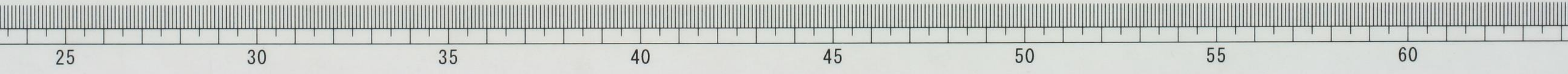
末美系乃有徳家

墙祿れ山

ちんじ虫の子

けしうら乃嵐乃

あゝ秋深



霜下秋深夢

うらら海と遠らん

うらら海と遠らん

取郷の夢を

空しく別らん

行はくき井は

みらの夕末

毎わやと隈を

あぬたにえ

まじきあし

まじきあし

いけおとあ

いかにあはれ  
あはれあはれ  
河もせきさ  
わたりさのき  
我庵ふねの  
山志のくに  
まかぬる  
月のしほ  
いふまじ  
あはれあはれ  
あはれあはれ

さしぬ衣城  
わひ人此神  
位し此世折  
知りて三毒を  
思ひも此人  
涙しうる為  
可何なる替ら  
けふこひつを  
うらみ此所乃  
怨よりあはし  
櫻毛つあゆり  
先になんて

先になんか

くつろぎ

かたじけなく

晩鐘ふり

けりた

もどろ

きり

たまたま

とく

けり

せむ

果

果ぬとて契つて  
わらふとすまふ  
言のふりも  
うらされ橋

秋篠子〇二日十五日

建初徳用一書

須文一書

春篠子〇十月下六夜

建始傳月一書

須文一書

天德子十月下六夜

省秋考

建於内建寺之寫  
高田先生筆

伊地知文庫

文庫20

89

40

45

50

55

60

65

70

75